

活動レポート

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会副委員長 神保祐一

テクニカルツアー

苗穂を歩く。JR 苗穂工場見学と苗穂の地形

1. はじめに

青年技術士交流委員会では、去る平成28年7月8日(金)にテクニカルツアーを開催しました。本ツアーでは札幌市内苗穂地区に焦点を当てて、苗穂の地形の成り立ちと、明治期より北海道の鉄道技術の中枢として機能してきた北海道旅客鉄道様(以下、「JR北海道」と略)の苗穂工場を見学しました。

2. ツアー概要

■日時：平成28年7月8日(金) 晴れ

■行程(概要)：

12:30～14:00：苗穂駅周辺散策

14:00～16:00：JR北海道苗穂工場見学

■参加者数：20名

3. 見学内容(1/2：苗穂駅周辺散策)

(1)想起編：「もしも『ブラ技術士』があったら」

近年、「お散歩番組」というジャンルがテレビ番組表に散見されるようになりました。古くから有名なものは「遠くへ行きたい」や「ぶらり途中下車の旅」ですが、読者諸兄の念頭に浮かぶのは「ブラタモリ」ではないでしょうか。

タモリさんが街々の歴史や地形から、現在の発展に至る経緯をひととく番組形態は、お散歩番組の中でも異彩を放ち、タモリさんの技術的な観点にいつも唸っています。本企画は「もしも技術士がブラタモリのようなことをしたら」という思いつきから始まりました。

散策場所を探して札幌市内の地図を眺めていたところ、苗穂を斜めに貫く「非・碁盤の目」の道を見つけました。そしてその横にはJR北海道の苗穂工場が。散策場所は決まりました。

(2)見学編：「川の痕跡を探しに」

苗穂の語源はアイヌ語の「ナイ・ポ」(小さな川)です。豊平川が形成した扇状地の北東の外縁部にあたります。戦後までは、わき水を束ねて伏古川が苗穂地区を流れていました。現地では伏古川により形成された自然堤防が現在も残されており、微地形の魅力を五感で感じるツアーとなりました。特に、「斜め通り」こと道道273号(花畔札幌線)の線形が伏古川と旧大友堀によることを体感し、大友堀の流末であった「大友公園」に終着しました。



写真1 旧河床部の愛和新穂保育園(EL12.8m)付近から自然堤防(天端 EL13.7m)を望む参加者。心眼で伏古川を見る



写真2 大友公園のモニュメントを眺めて散策結果との「答え合わせ」をする参加者

4. 見学内容(2/2 : JR 北海道苗穂工場見学)

(1) 工場概要

JR 北海道苗穂工場は、明治 42(1909)年の開設以降現在に至るまで、北海道内の鉄道技術の中核として機能してきました。現在では JR 北海道様の全車両について「検査・整備・修理・改造」を行っています。また、特殊鋳鉄製の制輪子(ブレーキシュー)の自社生産が行える、国内でも数少ない施設の一つです。

(2) 施設見学 ~安全と技能の砦~

① 施設見学

施設見学は、全体説明の後に①資材立体倉庫→②自家発電設備→③制輪子鋳造設備→④安全道場→⑤検修道場→⑥電機・内燃機・車輪・車体など各職場の順に行いました。

工場内の主要な職場を一巡することで、検修(自動車の車検に相当)のための入場から出場し営業運転に戻るまでのプロセスを学ぶことができました。

② 安全の砦「安全道場」と 5S の浸透

④の安全道場では、新入社員むけの安全教育として「危険の実体験(ただし怪我はしない程度)」を行っているとのことで、JR 北海道様の作業安全にかける意識の高さを感じることができました。また、危険実体験設備のほとんどが社員の皆さんによる手作りとのことに感嘆し、安全教育の伝承が続けられている工場であることを強く感じた施設でした。

さらに、作業中の皆さんのが場内を巡回していた私たちに向けて、明るく挨拶をくださいました。工場作業の基本として「5S(「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」)」が浸透していることを感じました。5S を掲げる会社は多いですが、一朝一夕に浸透するものではなく、作業者の意識の高さを感じさせてくれる光景でした。

5. おわりに

苗穂地区散策を通じて地形の変化に隠された歴史を感じるとともに、「速く安全な移動」を 100 年にわたり提供してきた JR 北海道苗穂工場の技術と安全意識を学ぶことができました。今回の事を通じ、今後も「北の技術」を語り継ぐ思いを新たにできました。

6. 謝辞

今回の企画に快くご賛同いただき、見学内容やルートの調整、当日の案内・説明等に多大なご協力を賜りました北海道旅客鉄道株式会社苗穂工場総務科助役の岸様をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。



写真 3 C11 型蒸気機関車。東武鉄道への貸出に向けて検修中を運良く見ることができました。



写真 4 検修中車両の足回りに食らいつく参加者



写真 5 安全道場内部。中央に作業服の正しい着装を示すマネキンさん